



前回左図のエビデンスレベル（研究の信頼性）を記しましたが、わからない用語がいっぱい出てきたと思いますので説明を含めながら整理していきたいと思

システマティックレビュー

まず目につく用語、システマティックレビュー。これは目的とする医学介入についてエビデンスを明らかにするために一定の基準を満たした質の高い臨床研究を集め、そのデータを統合して総合評価の結果を要約した文献です。世界中で行われている臨床研究のデータを集積しているので信頼性は高く、多くの文献を読む労力がはぶけるといったメリットがあります。

ランダム化比較試験

ランダム化比較試験とは被験者を性質が偏らないように無作為抽出し、医学介入を行う群と行わない群に分け、評価を行う臨床試験です。プラセボ効果*1が生じないよう盲検化*2しているかなどによっても細かく評価されます。医学介入が最も適正に評価される信頼度の高い臨床試験法です。

*1 偽薬を処方しても薬だと信じ込む事によって何らかの改善がみられる事
*2 誰が薬を飲んだか誰が偽薬を飲んだかをわからなくすること

コホート研究

コホート研究には前向き・

エビデンスレベル

- la ランダム化比較試験のシステマティックレビュー
- lb ランダム化比較試験
- IIa コホート研究のシステマティックレビュー
- IIb コホート研究、追跡率 80%未満のランダム化比較試験
- IIc アウトカム研究、生態学的研究
- IIIa 症例対照研究のシステマティックレビュー
- IIIb 症例対照研究
- IV (対照を伴わない) 症例研究、横断研究など
- V 批判的吟味を伴わない権威者の意見、症例報告など

後ろ向き研究があります。多数の健康人の集団を対象として、最初に疾病の原因となる可能性のある要因（喫煙・食生活・血液データなど）を調査し、この集団を追跡調査して疾病にかかる者を確認した上で、最初に調査した要因とその後の疾病の発生との関連を分析する方法を前向きコホート研究と言います。疾病にかかった後で事後的にその状況を調べ、さらにその集団を過去にさかのぼって追跡調査することで疾病の発生を確認する方法を後ろ向きコホート研究と言います。

症例対照研究

症例対照研究とは、症例（患者さん）と性別や年齢などの要因が似た人を対象として選び、その双方に対し

て、疾病の原因と考えられる要因（例えば食生活など）を過去にさかのぼって調査し両者で比較する方法です。症例数の少ない病気などでは研究対象者が集まらないためエビデンスを出すことはかなり難しいものです。このような場合は症例報告や治療経験のある先生の意見などが重要なエビデンスとなつてきます。

さて、ここまでエビデンスレベルのお話をしてきま

ヒルマヤスアキの「ホッとひと息」

ISO9001 維持審査

from データから from ハートへ



したが、残念ながら現在の日本ではまだまだエビデンスレベルの高い研究結果が少ないのが実状です。アメリカやイギリスではこういった研究が国の計画によって数多く行われていきます。それらの論文報告を無料で一般公開しているホームページがアメリカ国立医学図書館「Medline」で一般向けに見やすくした情報「Medline plus」を提供しています。また、専門家が研究結果を検証し、システマティックレビューが作られ、公開されているホームページ「Cochrane Library」の日本語訳サイト「Minds」は、日本医療機能評価機構が実施する医療情報サービスで、「Cochrane Library」の翻訳以外に治療のガイドラインなど、医療者に必要な情報から一般向けの解説まで閲覧することが出来ます。

次号はひるま矯正歯科が重要視しているう蝕に関する論文の紹介をしたいと思います。

2008年、ひるま矯正歯科はISO9001の認証を受けました。ISO9001とは企業の提供するサービス（ひるま矯正歯科の場合は歯科医療）が一定の品質を保ち常に改善が行なわれ、向上しているかを評価する国際標準規格です。認証後もこの規格にそって活動しているかどうか、定期的に外部の審査機関による維持審査で評価されます。今年には認証後2回目の維持審査となりましたが無事に終える事が出来ました。この維持審査を定期的に受ける事は、常に医院のシステムを見直しデータに基づいて改善を繰り返す事ができたため、医院全体の治療の質は向上し、スタッフの能力も向上している事を実感しています。さらに審査を繰り返すたびに様々な管理システムを充実させてきたため管理システムの完成度について審査機関からお褒めを頂くほどになりました。しかしシステムが充実するにともなう院長である私がスタッフをデータ優先で評価する傾向が強くなってしまうようです。データの陰に隠れたスタッフの能力や医院を大切に思う気持ち（ハート）を評価する事が出来ていなかった事を教えてくれる出来事がありました。とても反省させられました。どんなに素晴らしいシステムが出来上がったとしてもスタッフの気持ちが良い歯科医療を提供する事は出来ません。データで評価し改善する事は基本でありとても大切な事ですが、これからはハートも評価できる院長になりたいと思われ維持審査でした。